

# 第44回 東デ協親善野球大会

雨で順延となっていました東デ協野球大会、7月18日(木)再開となりました。

準決勝を行う、ヒマラヤ球場では、シミズオクト対セレスポ戦、5回のシミズオクト攻撃、ヒットと押し出しのフォアボールも重なり、9得点、をあわせ12対0でコールドゲーム。決勝戦へのキップを先に手に入れたのは、昨年度優勝のシミズオクト。

日の丸球場の、アイ工芸対丹青社戦、3回にうごきがありました。丹青社満塁、再三の攻撃と2つのエラーもありのすえ、5点得点。

今度は5回裏、アイ工芸先頭バッターねばりのすえ、フォアボールにて出塁。次のバッターもセンター強打し2塁打の2、3塁、そしてセンターフライで手堅く1点得点。

3塁野手のファインプレイもあり、残念1点まで。

最終回もアイ工芸1点を返すが、およばず。6対2で、丹青社の勝利となり決勝戦へコマを進めた。

3位決定戦は、アイ工芸対セレスポ戦、3回まで出塁するも双方無得点。4回表、センターオーバーで3塁だ。そのあいだに、初得点。4回表終わって1対0セレスポリード。5回からは、エースナンバー18番女性ピッチャーの登板。先頭バッター三振する。次のバッターは、フォアボール、次は、ピッチャーフライ、最後はショートゴロ、打者4人無得点で終わる。5回終わって1対0で、セレスポリード。

最終回、裏のアイ工芸の攻撃、2人塁においたまま、レフトへヒット、そのあいだに、2人ホームイン、逆転サヨナラヒット。アイ工芸2対1で、勝利。お見事3位となる。

いよいよ決勝戦、本日2試合目。先にキップを手にしたシミズオクト対丹青社の試合が12時プレイ開始。

まずは、シミズオクト先攻で試合がはじまった。いきなりランニングホームランで得点2点先制した。

1回裏、丹青社も攻撃。ヒット、ヒットとつないで得点。

2回表、シミズオクトの攻撃、先頭バッターねばりのすえ、フォアボール、そして盗塁、1アウト2塁。しかし、ピッチャー好投のすえ、三振、走者残塁となる。

3回表、ライト前ヒットで1点追加、更に盗塁で1アウト2塁。

次のバッターフォアボール、エラーで2、3塁のチャンスとなる。

しかし、セカンドゴロで3アウト、この回1得点に終わる。

3回裏、ヒットで出たランナーが内野ごろの間に2塁得点圏へ。

ピッチャーごろで、無得点に終わる。

4回表ヒットを重ね1得点、その後も1、2塁とするも残塁となる。

5回裏、丹青社の攻撃、1、2塁まですすめたが、残塁で無得点、5回終わって4対1で、シミズオクトリード。

6回裏丹青社の攻撃、2、3塁まですすめた。内野ごろで1点、つづいて、2塁走者が、ホームをねらうが、ホームで、タッチアウト、6回終わって4対2丹青社2点差に、迫る。

最終回シミズオクトの攻撃、1塁走者がでる、センター前ヒットの間にホームでアウトでうまく続きません。

最終回裏の攻撃。丹青社は1人塁において、ランニングホームランでなんと、4対4の同点こちらも、最終回裏にドラマが生まれました。

延長戦にはいり、こんどはシミズオクトの攻撃、1点をとり、更に1人、塁においてこんどは、そのままおかし、ランニングホームランで2得点。7対4でまたもリード。そのうら、レフトフライなどで2アウト、最後はライトフライで、ゲーム終了、7対4で、シミズオクト優勝。

2か月にまたがる野球大会、今年も優勝旗はシミズオクトに戻る形となる、大会でした。

広報委員 大類憲司/㈱フジヤ

